文科省研究開発局の片岡洋参事官が資料 43-1-1 (政府予算案) を簡単に説明し、続いて同宇宙開発利用課の中川健朗課長が資料 43-1-2 (JAXA 予算案) を丁寧に説明した後、20 分程の質疑応答があった。(予算環境が厳しい中、前年度予算に比べ、全体では 3%、JAXA 予算は 2%の増額になった。)

松尾：例外的な 2%の増と云う事で、大変有難う御座いました。より一段と、有効な活用をするのが我々の責務だと思って居ります。地球観測、宇宙科学含めて、私の目にも大変魅力的なミッションが並んでいると思いますし、「きぼう」はやっと上がる段取りになりまして、此れも楽しみに致して居ります。どうも色々と有難う御座いました。何かご意見は。

ええと、私の方から一つ。LNG について 56 億円と云うのが有りますけど、此れについてはどう云う考え方をされているんでしょうか。

中川：此れ、LNG 推進系につきましては、基礎的な研究経費、それからエンジンのシステム設計等に於ける経費と云う事で計上して御座います。ただ、本プロジェクトにつきましては、昨年の宇宙開発委員会に於いて、未だ一年半後に評価をすると云う事になって御座いますので、この宇宙開発委員会の評価が行われる事になっているものと、此れを踏まえまして、本予算につきましては、其の評価に従い適切に執行してまいりたいと云う事を考えております。

松尾：今、一寸お話に有りましたけれども、まあ、一年半を目処にと云う事を申して居りましたけれども、年が明け、或る程度準備が出来次第、我々としても評価を始めたいと思って居りますので、今年度分に付きましても評価が行われている事を念頭に置かれて、執行されることを希望したいと思います。宜しゅう御座いますね。あと何か。色々おありでしょうから。

青江：此の厳しい状況の中で 2%増と云うのは中々のものだと云う気が致します。スケジュールキープと云うものが為し得たと云う風な事も、大変喜ばしいと云う風に思います。其れで、科学なんですが、此れで所謂表面づらは減ですよね。SELENE を除くとどう云う状態になりますか。

中川：表面上 196 億から 153 億と云う事で減になって御座いますので、実際、ご指摘の通り此れ SELENE、「かぐや」の分が大分入って御座います。「かぐや」の分が 19 年度は 92 億御座いました。其れが来年度は運用になりますので 13 億と云う事になります。従って「かぐや」を除きますと、この宇宙科学全体で、昨年度が 105 億、此れが 20 年度予算案は 140 億と云う事になります。従って宇宙科学関係は、実体的に伸びていると云う実感を持って宜しいかと思いますし、現に、私ども予算要をしてまいりましても、財務省との折衝等でも、今回「かぐや」の活躍、それから「はやぶさ」の成果、此処に御座います「ひので」等、非常に顕著な結果が外に出て来たと云う事で、此処の折衝は非常に理解も深かったと云う事も付け加えさせて頂きたいと思います。

青江：オープンラボを中心とした産学連携があって、もう一つがセンチネル・アジア関係、此の辺の予算がどんな風になって

いると云う風に思っとけば良いですか。

中川：ご質問の件ですが、産学官連携等につきましては、予算の金額としては大きくないので表には出て参りませんが、非常に重要なものだと捉えておりまして、産学官連携推進全体で、昨年 8 億 7 千万位だったものが今度は 9 億 2 千万程度、確実に増加しておりますし、其の内ご指摘のオープンラボ運営につきましては昨年度 2 億 7 千 500 万、此れが 2 億 9 千 700 万、微増では御座いますが大変重要なものとして此れを増額と云う事で認められております。それからアジア関係で御座いますが、此れも経費としては特別と云う事ではないんですが、アジア等への貢献と云う事で、例えば災害時の緊急観測のものとか、正にセンチネル･アジアを通して緊急観測或は教育訓練の実施と、こう云った経費が御座いまして、此れは 6 億 6 千万、前年度と同額で御座います。此れは、金額としては増えて御座いませんが、着実に実施して行くと云う事で確保して御座いますし、このアジア等への貢献と云う名目以外にも、例えば ALOS の運用費で話題になりましたアマゾンの森林伐採の監視をやるとか、その他の衛星の運用費でもそう云ったアジア関係の経費と云うのは計上して御座います。

池上：先ずはどうもご苦労様で御座いました。国際宇宙ステーション関連ですが、打上げ[1]が 20 年度「きぼう」予定されてる訳なんですけど、予算が減ってるんですが、此れはどう云うような理由なんでしょうか。190 億から約 170 億になってますね。

中川：宇宙ステーションの方につきましては、開発が終了して運用と云うフェーズになって御座います。ただ、この運用に係る経費と云う処で、特に今回、全体は増えていると云うのは先程冒頭ご説明した様に、全体に独法改革と云う全体のキャップ (?) でグッと効率化出来る処は効率化すると云うのが掛かって、其処から増えていると云う風にお考え頂けば宜しいかと思うんですが、特に宇宙ステーションの運用につきましては効率化を図れるところは効率化すると云う事で、経費の効率化に努めた結果、まあ、実際の金額はこう前年度減になっていると。こう云うことで御座います。

池上：次期の固体ロケットについて色々議論して来たんですが、其れについては何か予算の上で反映はされてるんでしょうか。

中川：次期固体につきましては此方の宇宙開発委員会でもご議論頂いたと云う事で、昨年度が 5 千 400 万でありましたものが、次期固体ロケットと云うそのものの経費としては 2 億 1 千 400 万と云う経費になって居ります。此方も含め、固体ロケット技術の維持と云う事が抜かりなく出来る様にと云う事で、JAXA の方でも抜かりなく進めて行きたいと云う風に考えております。

青江：従来考えて居った、審議をしました、所謂タイムスケジュールが有る訳ですが、其のスケジュール通り進められる様な

[1] 打上げ費用が発生すると考えての発言か。打上げは NASA 費用で、政府間の金銭移動は行なわない計画だった筈である。

予算措置が為されたかっと云う意味なんですね。小型固体については。

中川：此方でご紹介してなかったかも知れませんが、総合科学技術会議の方で次期固体ロケットについては、現在、今回は実は要求は非常に高い要求をさせて頂きました。ただ、要求の中で、設計段階のものは良いけれども、其の中身について、開発に移行する際には大中小のロケットと云う全体のバランスを良く考えてやるようにと云う宿題を頂いておりまして、其処に至るフェーズでは、また、宇宙開発委員会でもご議論頂いて、ただ、其処までにキチッと、其処に着実に行ける様にと云う為の予算としては確保して御座います。

青江：あの、従いましてね、だから、其れは当然の事ながら節目ではチャンとやります。其れを前提に、所謂スケジュールがキチンとキープできるような予算措置が、今回為されてますよね。ステップアップの審議の時に言って居ったスケジュールが全う出来る様な予算措置であると云う事だと思うんですね。

中川：開発移行の時にもう一段ご議論頂くという前提の下に、今、スケジュールキープと云う事は大丈夫と考えております。

池上：全体を見ますとね、謂わば JAXA のデータを上手く活用して貰いたいと云う意味で、国土交通省、環境省、気になるんですが、予算減ってますよね。此れは我々からするとお客さんの方が頑張って無いなって感じするんですが、其の辺はどうなってるんでしょう。

片岡：此れは宇宙開発関係経費と云う事で纏めて御座いまして、宇宙利用の部分まで含めて、必ずしも、網羅的に見たものでは御座いませんので、その辺につきましてはデータ的なものが今後整備して行く必要が有ろうかと云う風に考えております。

青江：此れは今後に向けてのお願いなんですけどね、正に此処にあると、例えば何時でしたか、農水省の損害の保険制度を衛星を使って運用[2]すんだって云う、あの予算は付きました。

片岡：ついてません。

青江：と云う風に、各省庁色んな利用関係の事業があるんですよね、細かいけど。其れが全く此処へ見えてないから、農水省なんて此処一欄も無いから此れゼロだと、こう云う風に誤解しちゃうんですよね。と云う風な事で、出来る限り利用関係も、参考で結構ですから此処へ出して頂いて、開発関係はこうだけれども、利用関係はこんな風な進展をしてますよと云うのが分かるようにして頂くと良いかナアと云う風に思います。其れが一つなんですがネエ。

一点、環境省で GOSAT が落ちてますでしょ。お金がね。此れは大丈夫ですか。スケジュール的に言って。此れはスケジュール的に当然の事ながら、落ちるべくして落ちたんであって、大丈夫ですよね。

藤田：環境相のお金は、要求の段階で下がって、其の儘満額が

---

[2] 第 40 回定例会議の議題 3 の事である。

ついているんですけれども、此れは要求の段階で環境省の説明をお聞きした処では、要は、GOSAT 最終年度で 20 年度打上げ年度で御座いますので、計画に従って着実に進めてきた結果として予算としては減額で差し支えないと云う事で要求が為されていると云う処です。

松尾：何も心配することは無いということですね。

青江：此処に数字出てないんですけど、一次所謂 6 号機の失敗から、調査部会をやって、信頼性確保の為に色んな事をやった訳ですね。其の時に信頼性確保の為の予算的な措置と云うものを大きく積んだんですよね。其の直後。其れで、信頼性確保の為の努力をしようと、こう云う事になった訳ですよね。それから其の翌年、それから今度と、こう云うことで其のお金が多分少しずつ落ちとるんだと思うんですよ。今年も。其れはまあ、喉元過ぎればと云う風な事であっては困る訳ですね。信頼性と云うのは何をさておき、今度の新計画の中でも信頼性確保ってのは大前提だと云う考えに立っとる訳でしてね。其れこそ信頼性って言うのは、若し万一のことがあれば失うものは大きい訳でしてね、それに対して意は充分に用いなきゃいかん、努力って云うものは引き続き払わなけりゃいかんと云う事で、力が抜けて居るんじゃ困る訳ですね。と云う風に思うんですけれども、其処の辺はどう云う状態になっているかと云う事でありますけれど。

中川：予算的にはご指摘の通り、信頼性向上プログラム、一次のピークからは、今年が 44 億が 39 億と云う事で、ご指摘の通り落ちているんで御座いますが、此れは信頼性向上、正にスペシャルにやって来た向上プログラムが根付いて、キチッとしてやったと云う事で、決して其の信頼性を蔑ろにすると云う事ではありません。其処でやって来たプログラムのものを着実に踏まえて確りやっていくと云う事は、予算の多寡に関わらずやって行くと云う事で御座いますので、ご指導の点を踏まえ、確りと執行して参りたいと思っております。

青江：念のために、V 字回復[3]じゃないですね。V 字じゃないですよね。

松尾：まあ、此れは縦軸のスケールの取り方の問題でね。いかようにも。

中川：担当課長として訂正致します。議事録を。U 時回復で御座いますので。直線ぽくなって来たので、来年は更に飛躍を目指して頑張りたいと思います。

森尾：特に来年度の予算て云う事じゃ無いんですけど、先回 Wild Fire[4]に対する宇宙利用の話がありましたですね。こう云うのは日本の中では、日本の林野庁も環境省もあんまり Wild Fire で苦労してるって事が無い所為か余り関心が無い様に思うんですけど、前地球規模で見ると、炭酸ガスの排出量から見ると非常に大きなウェート占めてる問題だと思うんですね。そう云う意味ではああ云うものを、まあ、私は良く予算の仕組み解りませんけど、例えば ODA の予算に組み

---

[3] 中川課長が説明の中で、「平成 17 年の予算が最も低く、その後 V 字回復をして･･･」と言った事に対する指摘である。

[4] 第 42 回定例会議の議題 1 のことである。

込んで、もっと外国の Wild Fire を抑えるのに貢献するとかって様な事は何処の省がやれば良いもんだか解りませんが、少なくともああ云う事の利用価値が非常に大きい[5]、宇宙の利用価値が大きいと云う事はね、文科省さんから情報発信して頂くのが良いと思うんで、来年度の予算の問題じゃないんですけど、先々そう云う宇宙の活用の仕方について、或る意味じゃ政府に対する啓蒙活動って言いますかね、そう云う事をもっともっと力を入れて頂くと良いんじゃないかと云う風に思います。

中川：ご指摘の通りで御座いまして、正に地球規模の、まあ、此処では GEOSS をご紹介させて頂きましたが、宇宙委員会でも ODA と科学技術と云う様な連携も御座いますし、其の中で特に宇宙分野は、より ODA のみならず外務省との連携と云うのは先行して御座いまして[6]、また、来年のサミットとか云うものでも、こう云った宇宙の利用と云う観点を強調して行こうと云う動きも御座います。そう云った、グローバルと云うのは宇宙の決め手で御座いますので、文科省、或は利用、そして外交も含めて、引き続き発信して参りたいなと考えて居ります。

青江：政策局で新規要請しましたよね。ODA と科学技術。あれはどうなったんですか。

藤田：一寸金額は覚えてないんですけれども、億円規模で認められている処で御座います。それから外務省の方でも科学技術外交と云う関係での予算が認められている処で御座います。

青江：其の枠組の中で、其の枠組を使って、宇宙として来年度スタートさせる様なものは有るんでしたっけ。

藤田：具体的にはこれから検討して参ると云う事だと思います。

青江：予算要求の段階で、まあ、此れと此れと云う風には未だ決まってない?

藤田：決まっておりません。はい。

青江：やりましょう。是非。へっへ。

藤田：はい。

中川：補足させて頂きますと、あれはどちらかと云うと、多分理解が間違って無ければ、ODA の科学技術特別枠みたいなもので、科学技術を少し優遇して座布団履かせましょうと云う考え方だったと思うんですが、先程森尾先生のご指摘の様に、宇宙はそう云う座布団履かせなくても、向こうの国から是非宇宙でやってくれと言う手を、ODA 普通枠でも取れるだけの実力を、うちは持ってますので、そう云うものもやり

---

[5] リモセンの専門家に確認する必要があるが、森尾委員は価値を高めに誤解されては居ないか。誤認（火事ではないのに火事に間違う事と、火事なのに検出出来ない事）が未だ多過ぎて、もう少し改善しないと実用にならないのではないか。センチネル・アジアの予算が確保できている現在、研究の進展を期待して待つので十分だと思う。

[6] 何度も日本の外交政策と宇宙政策の摺り合わせの必要性を述べて来たが、非公開でやっていると云う事らしい。宇宙を利用する能力を外交に利用しようと云う外務省の意図があり、外交判断で方向を示して頂ける事を期待する。

科学技術もやりと云う両方でできるものは、

青江：下駄を履かせてもろうた、あの、いや、下駄あ履かしてもらわなくても行ける奴も付くし、下駄を履かして貰って行くのも行くし、大いに利用して行ったらどうでしょうか。

中川：あのー、外交面ではそう云ったものを PR して、逆に他の科学技術を引張るような形になって参ると思っております。はい、仰る通りだと思います。政策局の予算も取りに参りたいと思います。

青江：はい。

池上：JAXA は一応航空を見ていますよね。で、航空については何かコメント御座いますでしょうか。

中川：航空については此の JAXA 予算の内数で御座いますが、共通経費とか含めますと実質前年同の様な形になってますが、見掛けでは少し減になって御座いますが、特に今回は先程の独法改革の中で、幾つかの指摘があった中で、特に航空部門と云うのは、まあ、狙い撃ちと言いますか、今回此れは逆に評価の一つかと思うんですが、民間への移転が非常に上手く進んでいると云う事の評価と我々も受け止めてるんですけれども、非常に上手く、其れが今度は経済産業省の MRA ジェットって云う様なもの繋がっておりまして、其の基礎支えの処を JAXA が担っておりまして、ただ、逆に業界の目から見ると、そう云うものはもう民営化して廃止してしまえと云う様な動きも当初御座いまして、大変其処は苦労、お役に立つと廃止しろと言われると云う事であれだったんですが、其の基盤を支える処って云うのは確りと確保出来ましたので、引き続き産業化が進むところ、先端を狙うところ、産業化が進むところの基礎作り、あとは安全の下支え、或は先端的なものをと云ったものを確りと JAXA では担って行きたいと。其の必要な予算は確保できたと考えて居ります。

（松尾委員長が見回して、質問が無いと判断した様で）

松尾：ええと、2 番目は「かぐや」…